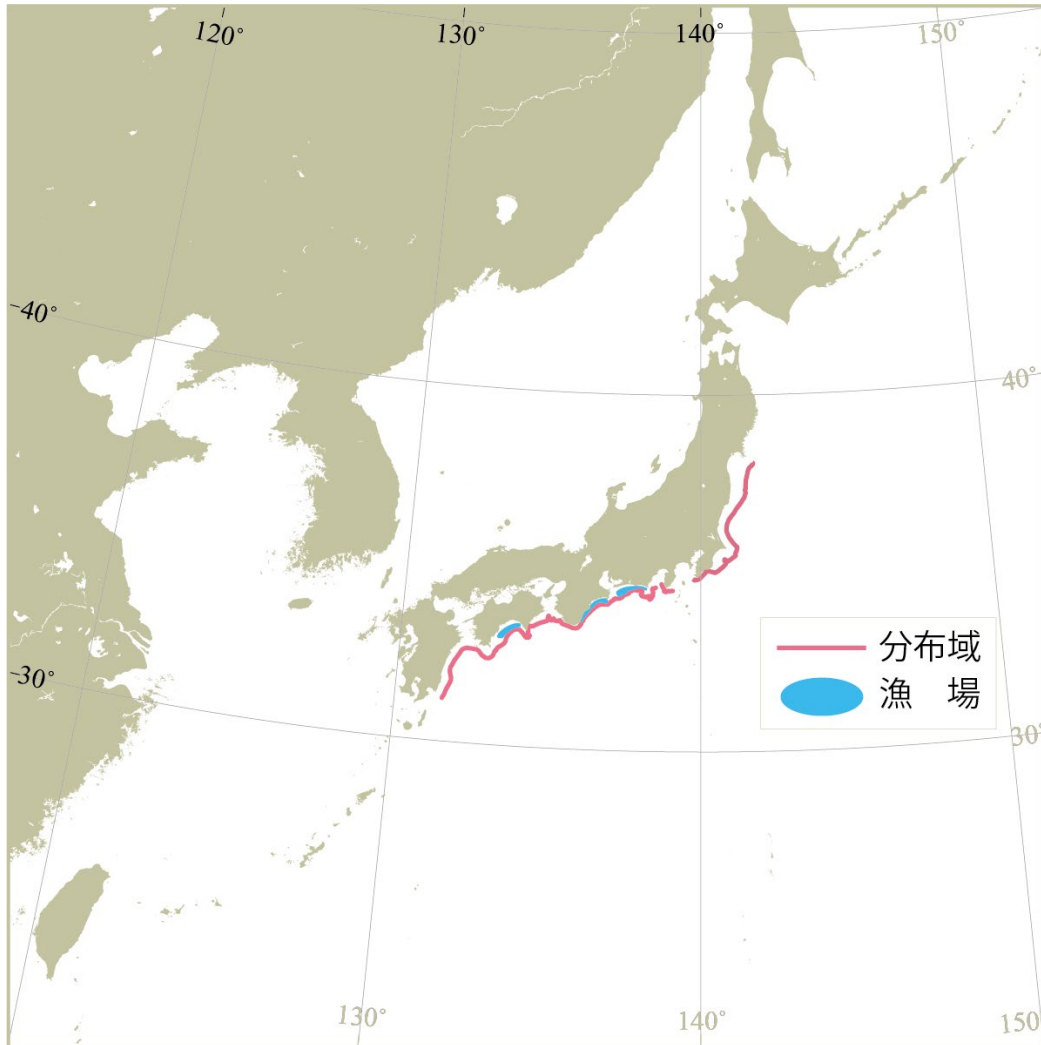




ニギス太平洋系群 令和3年度資源評価結果

生物学的特性

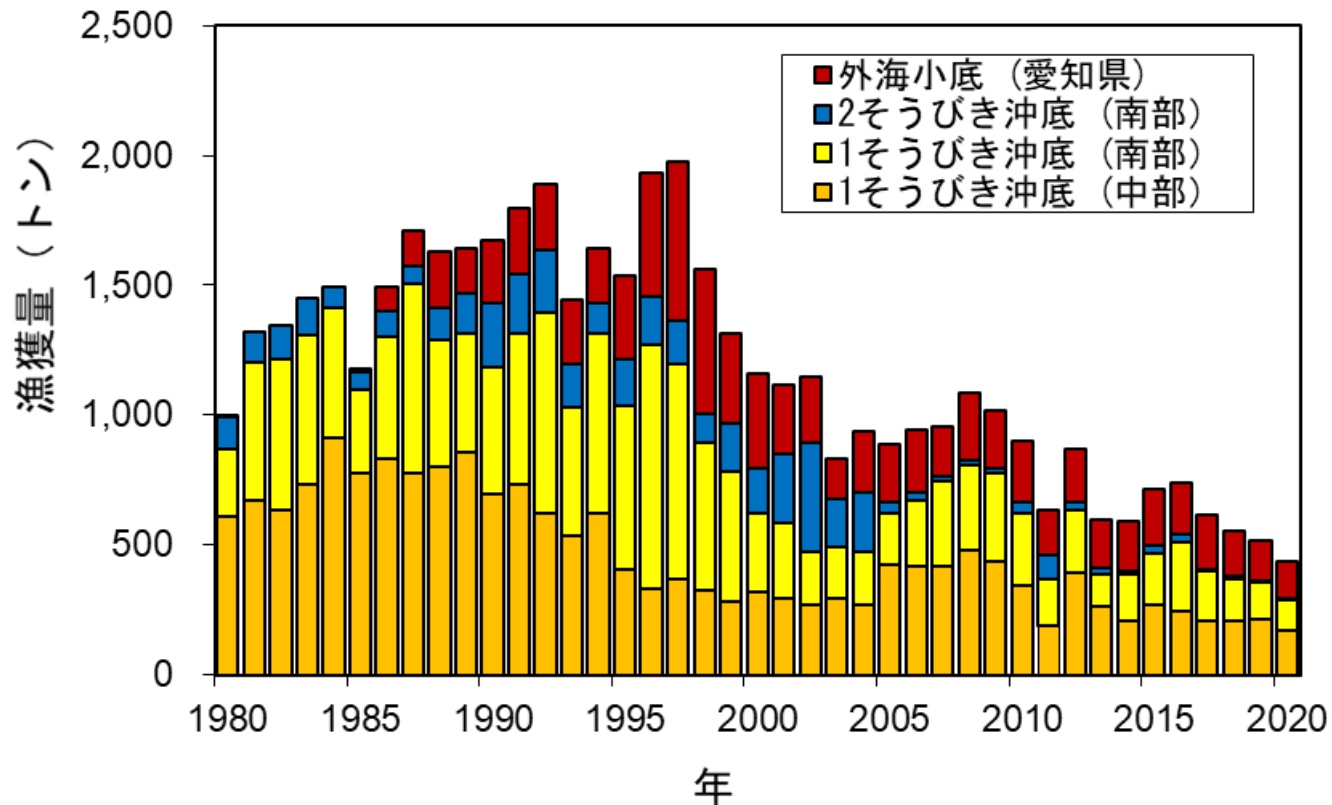


生物学的特性

- 寿命：3歳
- 成熟開始年齢：2歳
(100%)
- 産卵期・産卵場：
9月を除くほぼ周年、盛期は
2～3月で11～12月にも小さな
ピークが出現、
水深200～300mの海底付近
- 食性：
幼稚魚期は主にカイアシ類、
成長に伴い主にオキアミ類
- 捕食者：
中・大型の底魚類

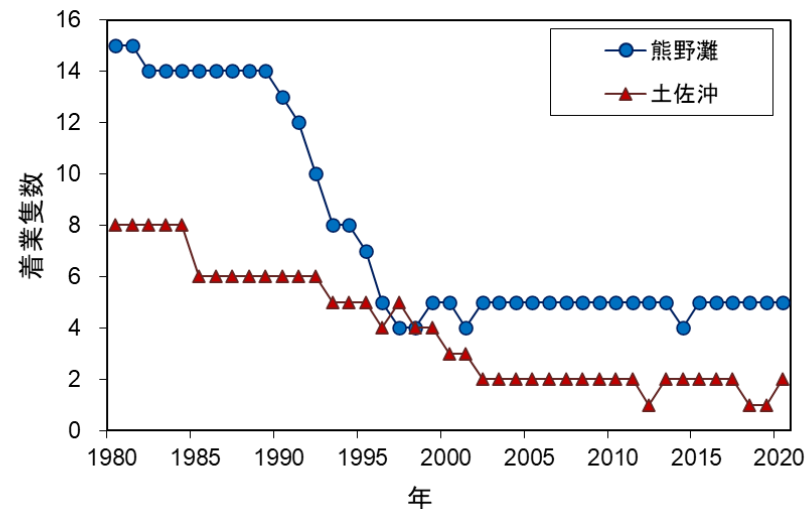
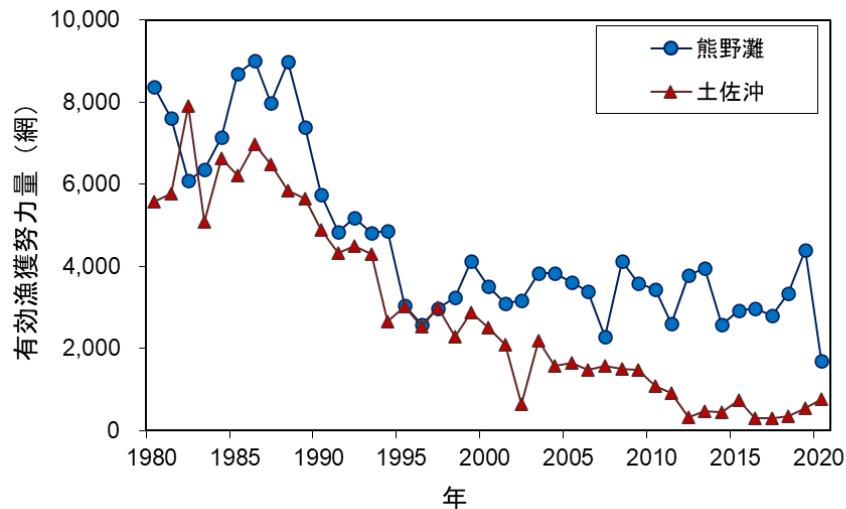
- 本系群の主要な漁場は太平洋の中部海域と南部海域

漁獲の動向①



- 2020年の漁獲量：436トン（2019年：516トン）
- 主な漁業種類は1そうびき沖合底びき網漁業（沖底）と愛知県外海小型底びき網漁業
- 漁獲量は1990年代後半から減少傾向が続いている

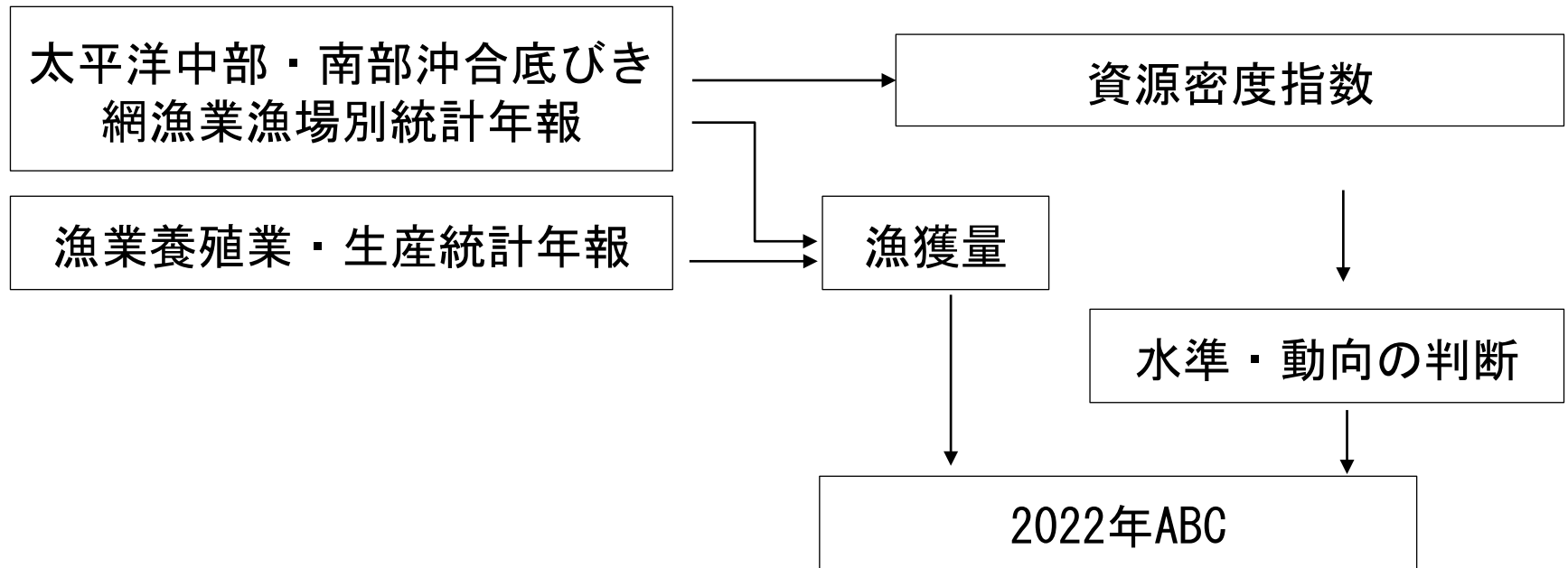
漁獲の動向②



- 1そうびき沖底の代表的な小海区における有効漁獲努力量は1980年代は高かったが、その後は横ばい～減少傾向で推移
- 着業隻数も1990年代ごろに大きく減少し、その後は横ばい

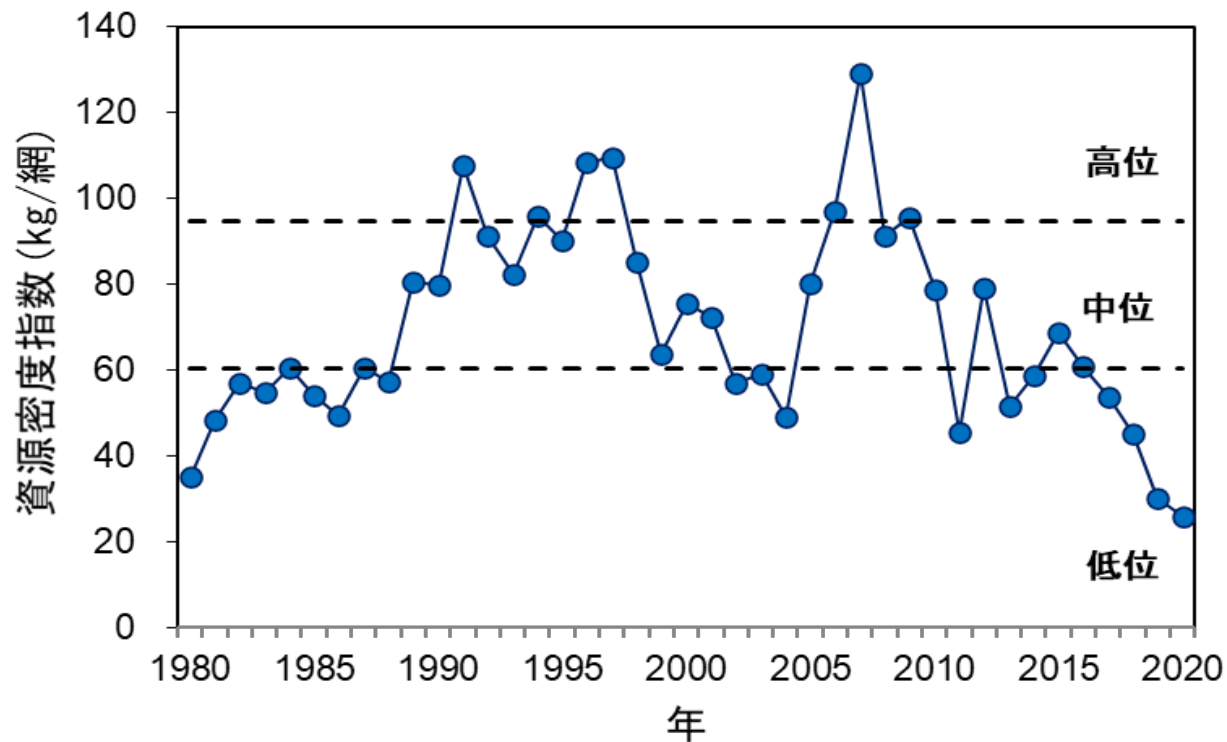
※有効漁獲努力量：有漁漁区数と漁獲量の積を各漁区の1網当たり漁獲量の総和で割った値

資源評価の流れ



※資源密度指数：漁獲量を有効漁獲努力量で割った値
主要漁場のうち操業隻数が安定している熊野灘の1そうびき沖底の値を
系群全体の資源量の指標値とした

資源の動向



※水準区分 低位／中位：資源密度指数60、中位／高位：資源密度指数95
(熊野灘における1980年以降の資源密度指数の最大値と最小値の間を3等分して算出)

- 熊野灘の1そうびき沖底の資源密度指数で水準・動向を判断
- 資源水準：2020年の資源密度指数は26であり「低位」
- 資源動向：直近5年間の資源量密度指数の推移から「減少」

資源評価のまとめ

- 資源水準は低位、動向は減少
- 熊野灘の1そうびき沖底の資源密度指数に基づいて資源状態を判断した

2022年ABC

管理基準	Target/Limit	2022年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
0.7・Cave3-yr・ 0.717	Target	202	—	—
	Limit	252	—	—

- ・ ABC算定規則の2-1) により、 $ABC_{limit} = \delta 1 \cdot Ct \cdot \gamma 1$ で計算
- ・ $\delta 1$: 0.7 (低位水準、資源動向が減少である場合の標準値)
- ・ Cave3-yr: 直近3年間における平均漁獲量
- ・ $\gamma 1$: 資源密度指数の過去3年の傾きと平均値から求まる係数⁷